

自然を語る会報告

## 第16章「迫り来る雪崩」

2025年5月17日（土） 10:00～12:00

飯田橋ボランティアセンター＋zoom

担当：西野翠さん

『沈黙の春』の読書会もいよいよ終盤に近づいてきた。16章「迫り来る雪崩」では、害虫防除のために化学薬品をばらまいた結果、その害虫以外の益虫や鳥も死に、害虫のほうは薬剤耐性を獲得してまたまた脅威を振るうという自然の逆襲について述べている。

昆虫の抵抗力がどのようにできてくるか、カーソンの時代にはわからなかったことの研究が進んできている。それは、共生細菌によるものだという。産業技術総合研究所（産総研）の研究によると、昆虫の殺虫剤抵抗性は共生細菌によってあつという間に発達するそうだ（2018年発表）。自然を語る会では、産総研の研究から、ホソヘリカメムシという大豆を食害するカメムシが取りこむバークホルデリアという細菌について詳しく説明があった。研究では殺虫剤の使用濃度や使用頻度と、カメムシがこの細菌を体内に取りこんで薬剤耐性を身につける力の実験的に明らかにして、殺虫剤抵抗性を未然に防ぐ新たな技術をめざしている。今後の研究に注目したい。

また、最後にドキュメンタリー映画『フォレストー生命の森』の紹介があった。

（小川記）